

市島春城

いちじまはるぎ

隨筆家。安政七年二月十七日越後國生れ、昭和十

九年四月二十一日歿（二六〇—一九四）。本名謙吉、幼名雄之助。別號双

魚堂、如不及齋、春城學人、桃浪、閑松庵主人、雙魚堂主人等。明治

十四年開成學校中退、大隈重信總理の勸告で進黨に入り、のち東京專

門學校創設の善舞刀。二十七年衆議院議員。『高田新聞』創刊、『讀賣

新聞』主筆、早稲田大學理事、同大圖書館館長、日本圖書館協會會長

など。

著書『日本百科大辭典完成記念録』（本名、大隈重信、阪谷芳郎合著、大正八年

十二月二十一日刊）、『鴻爪痕』（同、編、大正九年四月二十七日市

野瀬二郎編、野瀬瀧刊。

前島密遺稿及追悼録）、『藝苑一夕話』全二冊（上、下

・大正十一年四月十一日早稲田大學出版部）、『隨筆瀨山陽』（大正

十四年二月十一日早稲田大學出版部）、『版畫禮讚』（合著、糸書樓製

會編、大正十四年二月十八日春陽堂）、『春城隨筆』（大正十五年十

二月二十日早稲田大學出版部）、『美術講話集（第一輯）』（本名、

合著、大正十五年十一月二十五日親父研究会）、『隨筆春城六種』（昭

和二年八月二日早稲田大學出版部）、『明治  
三川

合著、合著・文明協會編、昭和二年六月、千四百文明協會「文明協

會（エー・ズ））、『春城筆話』（昭和二年八月十一日早稲田大學出版

部）、『半筆・春城  
海盜』三編『熱海漫談』（薄田町雲編著、昭和四年十月十二日

富士書房、春陽堂發賣）、『春城漫筆』（昭和四年十一月十二日早稲

田大學出版部）、『春城代辭録』（昭和八年十一月二十日中央公論社）、

『文人墨客の語の』（昭和十年十一月十九日南有書院）、『春城閑

話』（昭和十一年二月十五日漢文社）、『蘇州録』（合著者合編、昭

和十一年二月十五日漢文社）、『蘇州録』（合著者合編、昭

和十一年十一月二十五日東京宛書房「遊藝隨筆」(春城隨筆)、「餘生兒戲」

(昭和十四年十一月八日富山房)、「回顧錄」市島春城選集・第一卷

(昭和十六年二月二十五日中央公論社)、「春城談叢」(昭和十七年

八月十日千歲書房)、「獄政論」並獄窓舊夢談」(本名、昭和二十一年

年十一月一日有斐閣)「新日本刑事學叢書」(前島密合行伝)「同、

編、昭和二十一年二月十五日神奈川・前島密合法記刊行会)等。

文獻、市島成一編『家願之談』(昭和四十年四月二十五日新編・筆名  
会)等。